



公用車 システム 納品

鳥取市役所で稼働見学

CAL研究会が独自開発

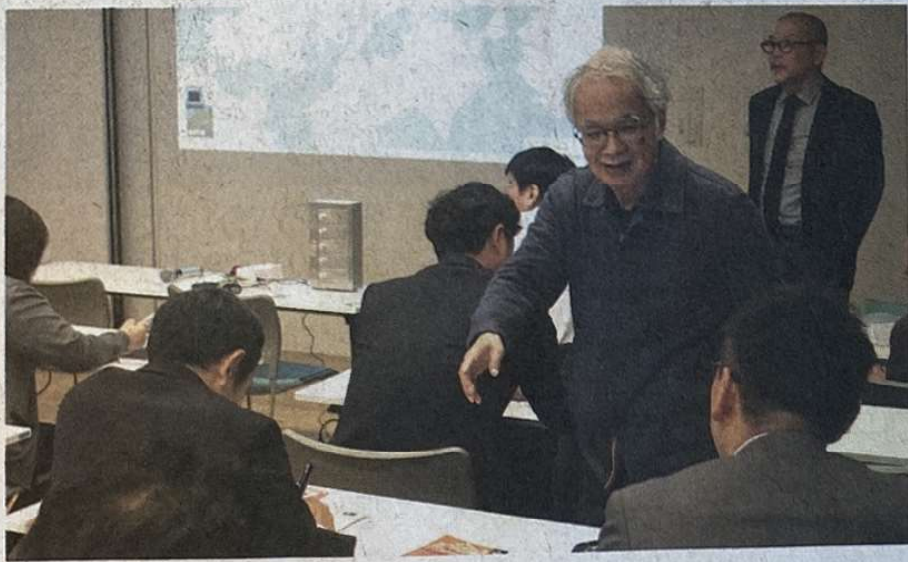
【鳥取】CAL研究会「公用車のカーシェアリングは、独自に開発したシステムを、鳥取

市役所に納品した。14日15日に同市役所で開催したCAL研究会で報告し、実際に稼働している様子を紹介した。同システムは60台の

公用車のカギを60区画に分かれたキーボックスに入れて管理する。利用する職員は、個人のパソコンから予約し、IDカードをキーボックスにかざして車のカギを取得する。カード読み取り装置が一つで済み、経費削減ができる。

当日は関東から九州までのSS経営者ら約50人が出席。冒頭の参加者自己紹介では、車販事業の強化や油外収益強化のための情報収集など、それぞれ参加動機を話した。開催県SS代表としてあいさつした智頭石油の米井哲郎社長は「17年前に鳥取県で生川正洋氏とCAL活動をはじめた。それ以来みなさんと一緒にTCS（トータルカーライフサービス）について情報を発信しあって常に前進してきた。今年も一緒に進んで前進しよう」と呼びかけた。

初日はシェアリングシステムが実際に使われている様子を見学したほか、参加者の店舗分析やアプリ「マイピット」を紹介した。2日目は参加者からの事例発表のほか、24時間営業の整備工場を見学した。



参加者が店舗分析